

(小規模企業景気動向調査)

三重の景況

57

(平成22年7月～12月期)

三重県商工会議所連合会

桑	名	商	工	議	所	所
四	市	商	工	會	所	所
鈴	鹿	商	工	會	所	所
龜	山	商	工	會	所	所
	津	商	工	會	所	所
松	阪	商	工	會	所	所
伊	勢	商	工	會	所	所
鳥	羽	商	工	會	所	所
上	野	商	工	會	所	所
名	張	商	工	會	所	所
尾	鷺	商	工	會	所	所
熊	野	商	工	會	所	所

はじめに(総括)

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年 2 回実施しています。このたび平成 22 年下期の調査結果がまとまりましたのでご報告します。

三重県下の景気動向を示す指標である「現状」の D I 値は、平成 18 年下期の 37.9 を境に、平成 21 年上期の 73.3 まで悪化していました。今回の調査結果では、前々期(70.1)、前期(65.5)に引き続き、今期は 58.6 と 6.9 ポイント改善しており三期連続の回復が見て取れます。しかしマイナス幅は依然高水準で推移しており、小規模事業者における厳しい経営環境が続いているのが窺えます。

業種別の D I 値では、「現状」は全ての業種で改善が見られ、「今後の見通し」でも改善、または横ばいとなっています。また、地区別の D I 値では、伊賀地区のみ「現状」でわずかながら悪化が見られましたが、その他の地域では改善が見られました。

景気は底を脱して緩やかな回復に向かっていると思われませんが、その回復状況は業種により差が見られます。製造業の D I 値は 57.1(前回 69.8)で 12.7 ポイント回復しております。また、飲食業は 66.2(前回 73.2)で 7.0 ポイント回復、小売業は 63.4(前回 70.8)で 7.4 ポイント回復しております。しかし一方で、卸売業は 64.3(前回 65.7)、建設業は 60.4(前回 65.3)と横ばいの値を示しており、業種によりばらつきがあると考えられます。

「売上状況」「利益状況」「販売条件」の項目についても、前期より改善の数値を示しています。具体的には「売上状況」の項目について製造業 28.3(前回 45.0)、小売業 48.1(前回 63.9)で改善が見られます。地区別では北勢地域は 41.5(前回 55.7)と改善傾向が見られます。円高や原材料高などの懸念材料もあり、まだ先行きに不安感がありますが、「売上状況」「利益状況」ともに回復するとの見通しであり、製造業を中心に景況は緩やかな回復が続くものと思われれます。

また、景気の現状を計る一つの項目でもある設備投資については、「予定している」と回答した割合は、全体で 10.1%と前期 7.2%と比較して 2.9 ポイント増加しました。業種別では、交通運輸業が 33.3%と他の業種より高く、卸売業が 9.3%、小売業 9.9%と他の業種よりも低い割合となっています。地区別では、中勢地域が「予定している」とした割合が 12.6%で最も高くなっています。

借入の状況(難易度)については、全体では前期 7.9、今期 7.3 の横ばいで、地区別では北勢地区、南勢地区で改善が見られました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する皆様の更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたりましては、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成 23 年 2 月

三重県商工会議所連合会

も く じ

(調 査 内 容)

・ 調査要領	1
1 . 現状と今後の見通し	4
現況 D I 値の推移	6
2 . 売上状況	8
3 . 今後の売上見通し	8
4 . 利益状況	9
5 . 販売条件	9
6 . 仕入条件	10
7 . 設備投資	10
8 . 資金繰り状況と今後の見通し	11
9 . 借入状況	12
借入難易度 D I 値の推移	13
10 . 借入予定	14
11 . 借入希望先	14
12 . 借入金の使途予定	15
13 . 経営上の問題点	15
・ 県下商工会議所地域における景況	17
・ 調査票 (写し)	23

「三重の景況」調査要領

1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所〔*1〕が、小規模企業〔*2〕の動向を合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別〔*3〕に行い、合わせて各会議所地域ごとの景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

〔*1〕県下商工会議所

桑名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴鹿商工会議所	中小企業相談所
亀山商工会議所	中小企業相談所
津商工会議所	中小企業相談所
松阪商工会議所	中小企業相談所
伊勢商工会議所	中小企業相談所
鳥羽商工会議所	中小企業相談所
上野商工会議所	中小企業相談所
名張商工会議所	中小企業相談所
尾鷲商工会議所	中小企業相談所
熊野商工会議所	中小企業相談所

〔*2〕小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

〔*3〕県内各地区は下記のとおり

北勢地区.....桑名・四日市・鈴鹿・亀山
中勢地区.....津・松阪
南勢地区.....伊勢・鳥羽
伊賀地区.....上野・名張
東紀州地区...尾鷲・熊野

2．調査対象・回答状況

県下12会議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業9,471社を対象とした。回答状況は、回答率28.1%、回答企業2,600社であった。

3．調査方法

郵送方法によるアンケート方式

4．調査期間

平成23年1月4日～1月14日

当調査は、“1月～6月期”と“7月～12月期”の年2回、調査を実施している。

5．集計方法

伊勢商工会議所情報センターにて、一括コンピュータ集計を行った。

6．調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、津・松阪・上野・名張の4商工会議所が担当した。なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

DI値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

DIとは景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

（注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第2桁で四捨五入をしているため、合計が100.0にならない場合があります。

業種別 地区別回答状況

単位 企業 (): % 上 業種別構成率 下 地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢		南勢		伊賀		東紀州			計					
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪	伊勢	鳥羽	上野	名張	尾鷲	熊野							
製造業	食料	63	31	13	16	3	30	18	12	14	4	10	9	4	5	27	20	7	143	
	せんい	11	3	4	3	1	4	1	3	2	2	0	7	6	1	3	3	0	27	
	機械	78	31	20	21	6	14	7	7	19	7	12	7	4	3	2	2	0	120	
	金属製品	79	27	18	33	1	10	6	4	12	5	7	6	4	2	7	7	0	114	
	木材	16	5	6	2	3	13	3	10	4	3	1	4	3	1	15	14	1	52	
	化学	14	2	8	2	2	4	3	1	0	0	0	4	1	3	0	0	0	22	
	窯業	14	1	9	3	1	2	1	1	2	2	0	2	1	1	6	5	1	26	
	印刷出版	10	2	2	5	1	14	9	5	3	2	1	4	1	3	3	1	2	34	
	その他	82	28	14	34	6	17	12	5	10	8	2	8	4	4	9	7	2	126	
	計	367 (28.4) (55.3)	130	94	119	24	108 (23.9) (16.3)	60	48	66 (19.2) (9.9)	33	33	51 (21.2) (7.7)	28	23	72 (26.3) (10.8)	59	13	664 (25.5) (100.0)	
非製造業	卸売業	食料	17	6	11	0	0	6	5	1	7	5	2	5	1	4	6	4	2	41
		せんい	5	2	3	0	0	3	1	2	7	5	2	4	3	1	0	0	0	19
		その他	43	19	16	6	2	13	6	7	16	11	5	14	6	8	5	4	1	91
		(小計)	65	27	30	6	2	22	12	10	30	21	9	23	10	13	11	8	3	151
	小売業	せんい	52	20	21	7	4	14	10	4	18	13	5	7	4	3	22	11	11	113
		食料	52	18	15	12	7	6	2	4	13	6	7	7	3	4	19	10	9	97
		日用品	9	4	1	3	1	5	1	4	6	5	1	1	1	0	8	5	3	29
		電気製品	18	6	3	6	3	4	3	1	8	6	2	5	2	3	6	5	1	41
		その他	80	24	20	22	14	43	21	22	31	15	16	19	5	14	23	13	10	196
		(小計)	211	72	60	50	29	72	37	35	76	45	31	39	15	24	78	44	34	476
	サービス業	美容・理容	32	7	16	6	3	12	8	4	7	5	2	7	1	6	10	6	4	68
		ホテル旅館	5	1	1	2	1	0	0	0	17	1	16	1	0	1	5	2	3	28
		自動車整備	29	9	9	7	4	14	7	7	14	13	1	7	1	6	6	4	2	70
		不動産	37	14	19	2	2	18	14	4	6	6	0	10	1	9	2	2	0	73
		その他	64	18	18	19	9	32	24	8	31	27	4	20	4	16	7	2	5	154
	(小計)	167	49	63	36	19	76	53	23	75	52	23	45	7	38	30	16	14	393	
	建設業	土木工事	77	8	31	35	3	13	10	3	12	6	6	12	5	7	13	11	2	127
		建築工事	123	40	30	47	6	32	18	14	28	17	11	17	4	13	10	9	1	210
		その他	130	31	49	42	8	65	50	15	23	17	6	21	4	17	9	4	5	248
		(小計)	330	79	110	124	17	110	78	32	63	40	23	50	13	37	32	24	8	585
	飲食業	54	14	13	24	3	20	5	15	24	8	16	13	3	10	25	16	9	136	
	交通運輸業	22	5	7	4	6	20	7	13	1	0	1	6	2	4	8	8	0	57	
	計	849 (65.8) (47.2)	246	283	244	76	320 (71.0) (17.8)	192	128	269 (78.2) (15.0)	166	103	176 (73.0) (9.8)	50	126	184 (67.2) (10.2)	116	68	1,798 (69.2) (100.0)	
その他	74 (5.7) (53.6)	23	18	26	7	23 (5.1) (16.7)	22	1	9 (2.6) (6.5)	8	1	14 (5.8) (10.1)	4	10	18 (6.6) (13.0)	14	4	138 (5.3) (100.0)		
合計	1,290 (100.0) (49.6)	399	395	389	107	451 (100.0) (17.3)	274	177	344 (100.0) (13.2)	207	137	241 (100.0) (9.3)	82	159	274 (100.0) (10.5)	189	85	2,600 (100.0) (100.0)		

1. 現状と今後の見通し

a) 現状(図-1・2・3参照)

全回答企業2,600事業所中、「良い・やや良い」が5.4%、「まずまず」が30.2%、「悪い・やや悪い」が64.0%で、DI値は58.6(前回65.5)となり前回より6.9ポイント改善している。

業種別のDI値では、飲食業66.2、卸売業64.3、小売業63.4、建設業60.4、製造業57.1、交通運輸業54.4、サービス業53.5、その他43.5の順となっている。

地区別のDI値では、北勢地区60.2、中勢地区51.5、南勢地区63.2、伊賀地区60.2、東紀州地区55.2であった。

図-1 現状について(業種別)

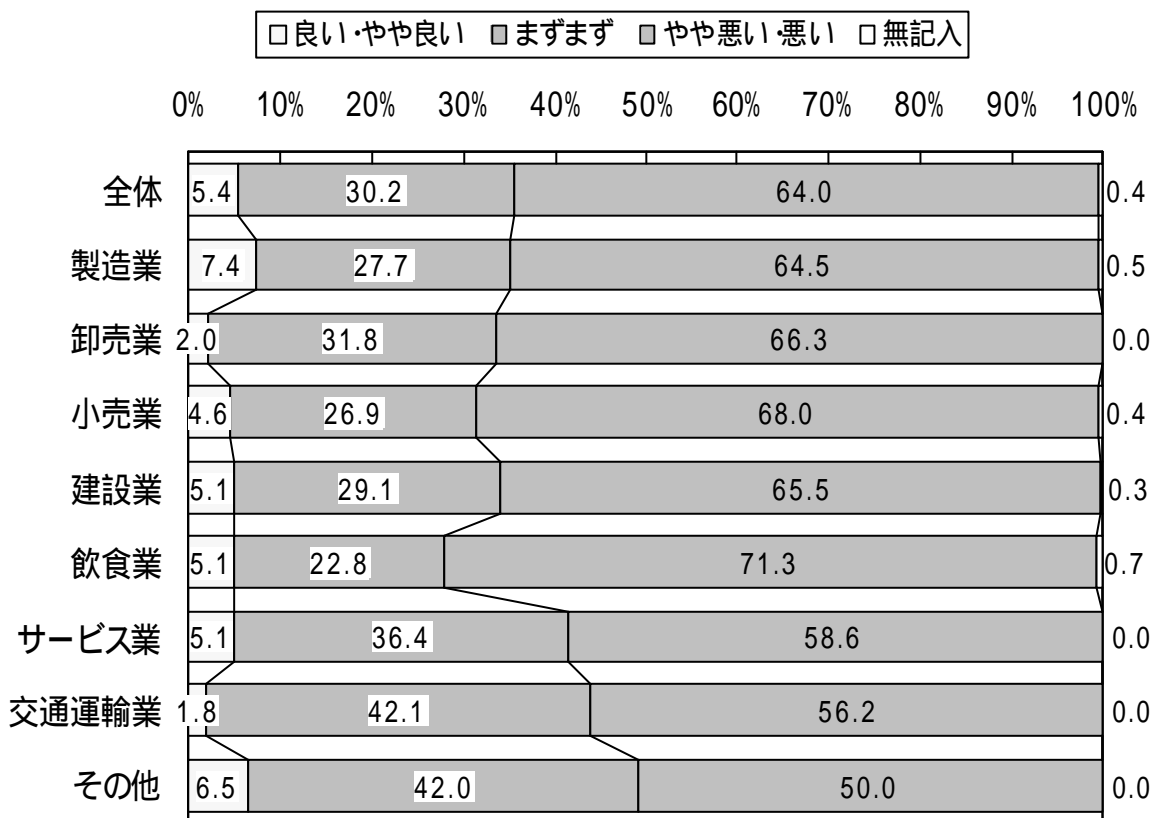


図 - 2 現状について (全体 地区別)

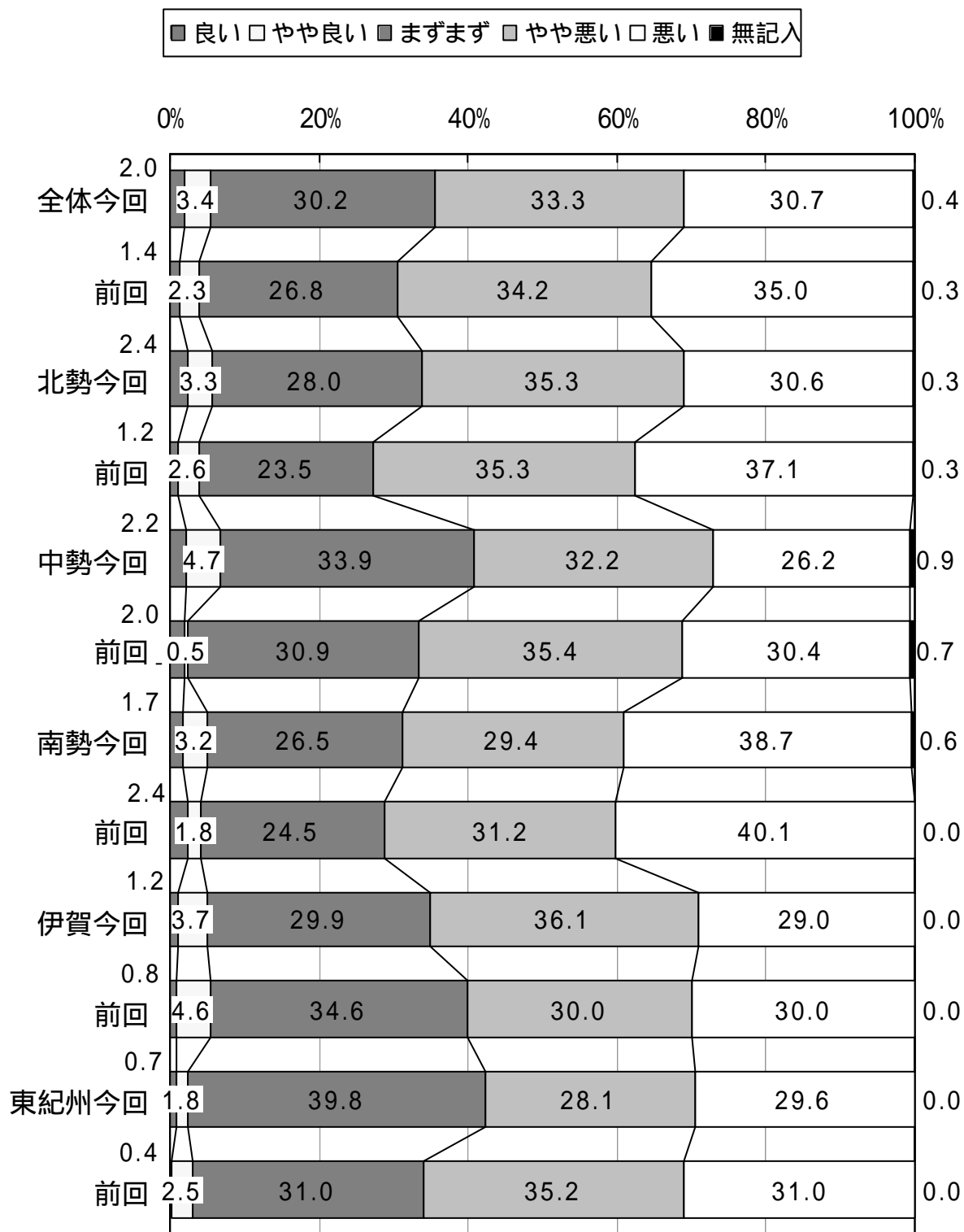
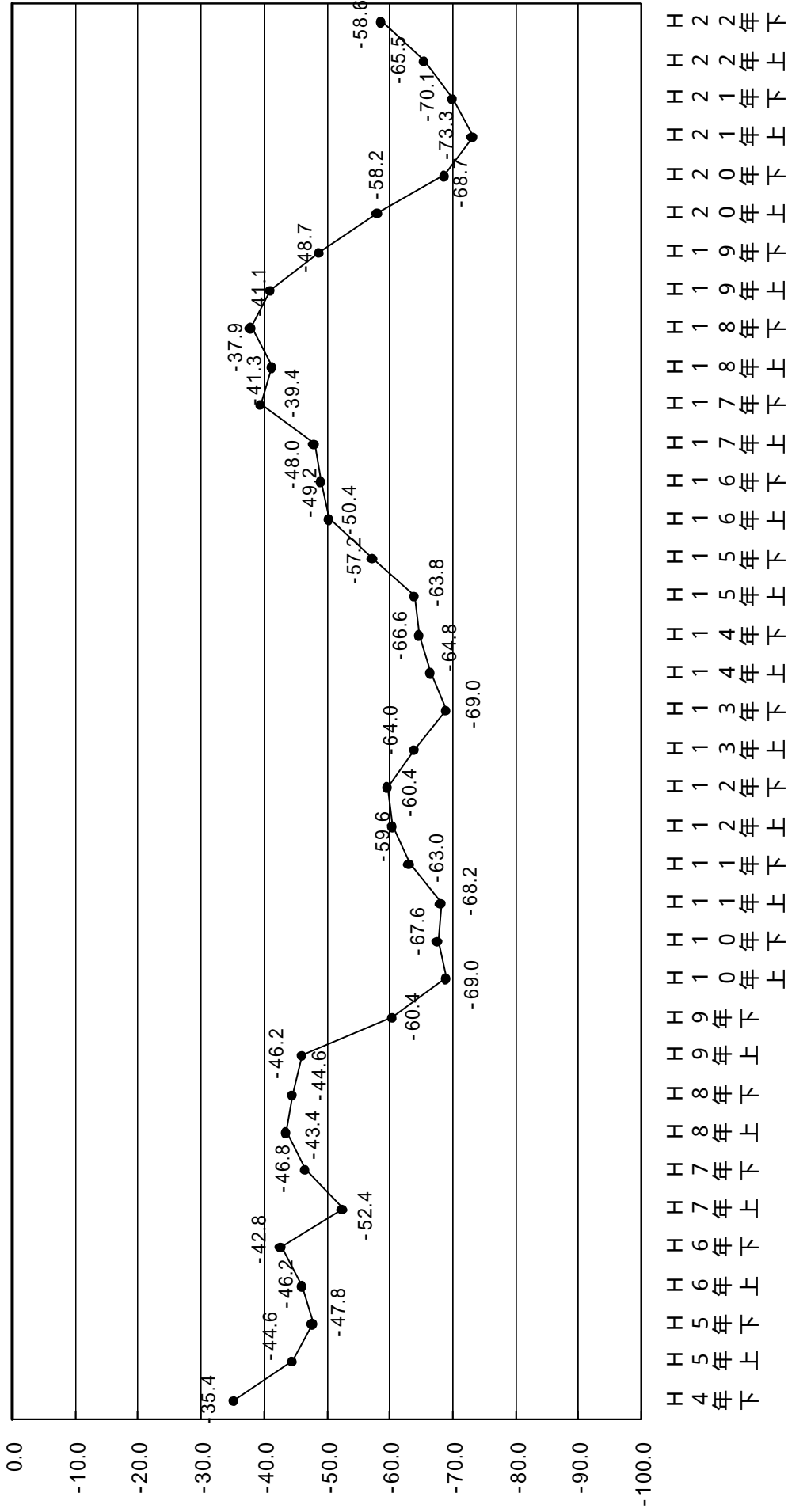


図 - 3 現況D値の推移



注) H17下期分までの値はB S I値を2倍した数値で表示

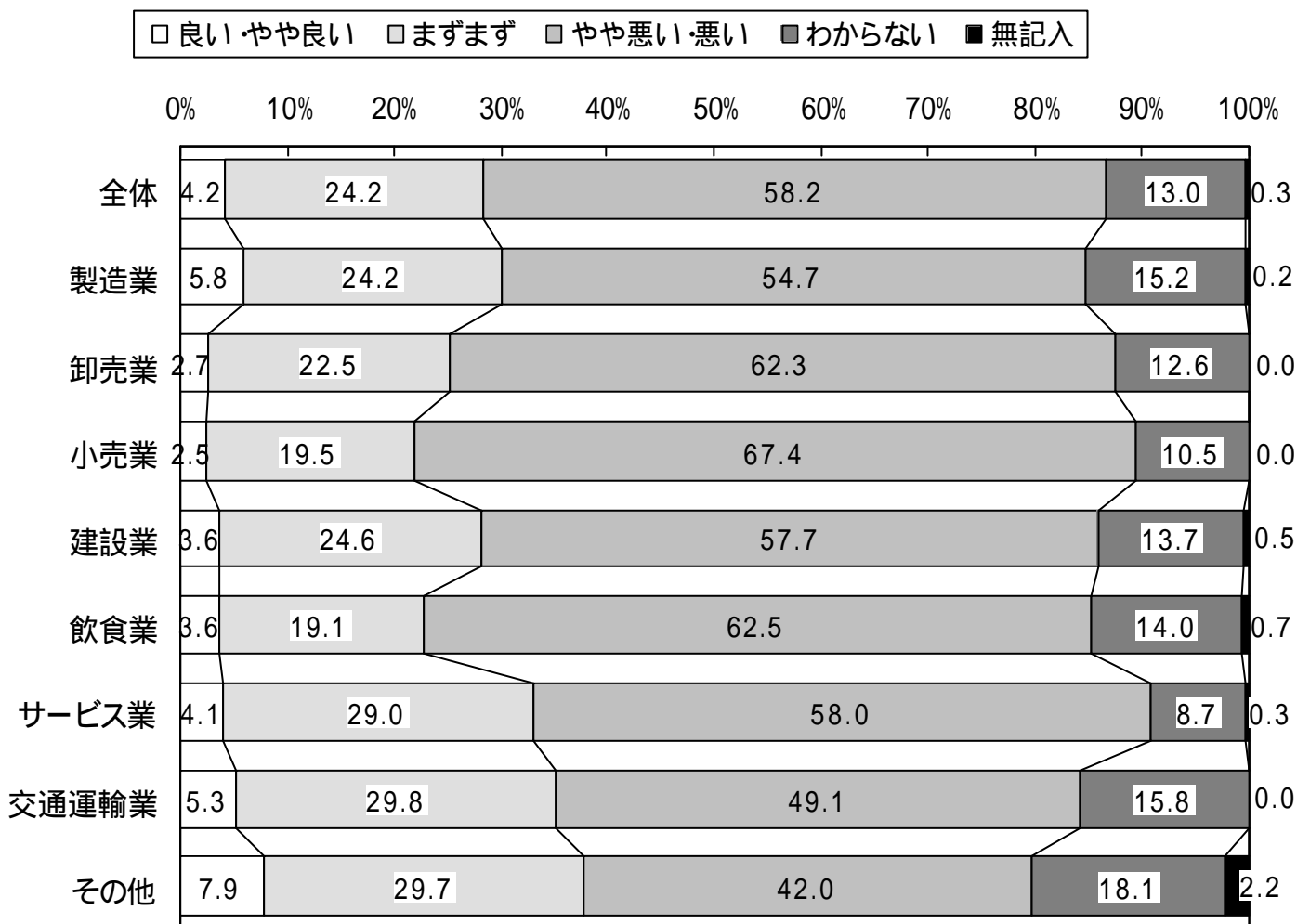
b) 見通し(図 - 4参照)

全体の見通しでは、「良い・やや良い」が4.2%に対し、「悪い・やや悪い」は58.2%で、D I 値も 54.0(前回 58.3)となり、4.3ポイント改善した。

業種別では、D I 値で小売業 64.9、卸売業 59.6、飲食業 58.9、建設業 54.1、サービス業 53.9、製造業 48.9%、交通運輸業 43.8、その他の業種 34.1の順であった。

地区別のD I 値では、北勢地区 54.4、中勢地区 52.5、南勢地区 55.5、伊賀地区 52.3、東紀州地区 54.0であった。

図 - 4 今後の見通しについて(業種別)

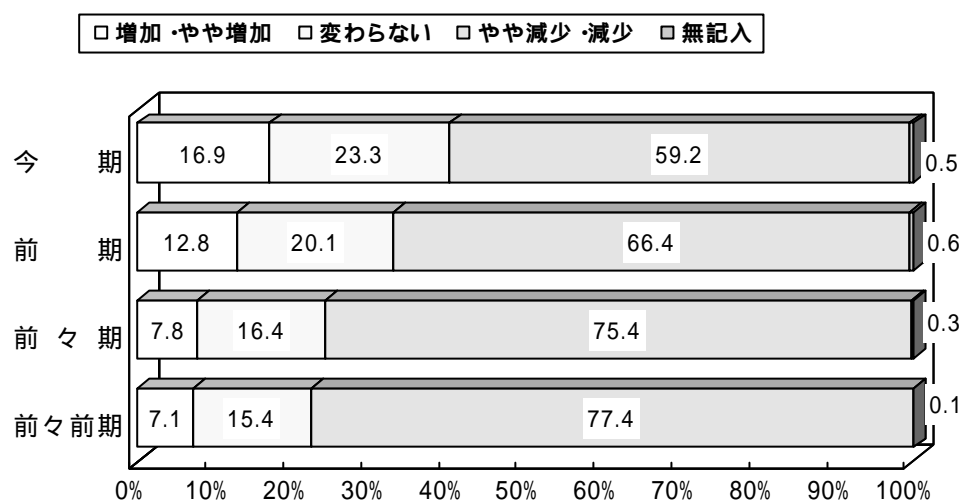


2. 最近の売上状況 (図 - 5 参照)

全体では、「増加・やや増加」が 16.9% (前回 12.8%)、「やや減少・減少」が 59.2% (前回 66.4%) で、DI 値は 42.3 (前回 53.6) となり、11.3 ポイントの改善となった。

業種別では、前回に比べてほとんどの業種が改善しており、特に製造業 28.3(前回 45.0)、小売業 48.1 (前回 63.9) と大きく改善したものの、卸売業のみ 55.7(前回 55.0) とほとんど変化は見られなかった。地区別では、どの地区も前回に比べて改善しており、特に北勢地区は 41.5 (前回 55.7) と改善傾向が見られたものの、伊賀地区は 42.7 (前回 47.9) と僅かな改善にとどまった。

図 - 5 売上状況

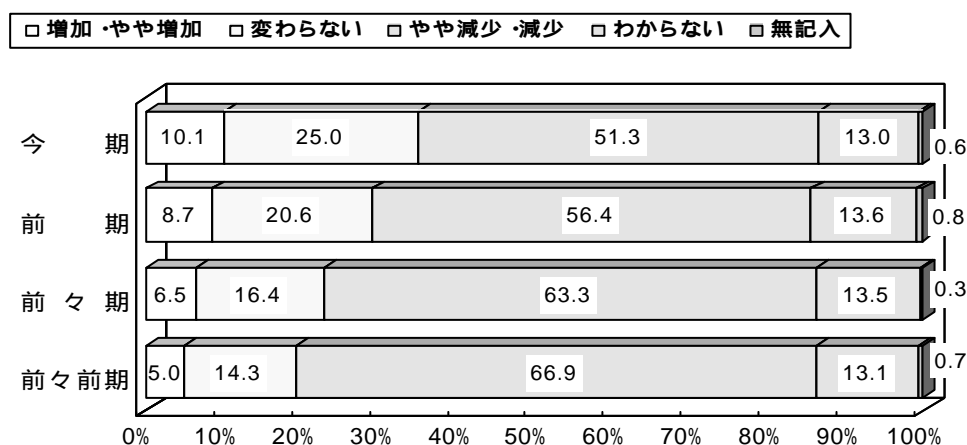


3. 今後の売上見通し (図 - 6 参照)

全体では、「増加・やや増加」が 10.1% (前回 8.7%)、「やや減少・減少」が 51.3% (前回 56.4%) で、DI 値は 41.2 (前回 47.7) となり、6.5 ポイント改善の見通しとなった。

業種別では、ほとんどの業種で改善傾向が見られ、特に飲食業で 45.7 (前回 61.8) と 16.1 ポイントの改善となった。地区別では、地域差は見られるものの、全ての地区で改善見通しとなっている。

図 - 6 売上見通し



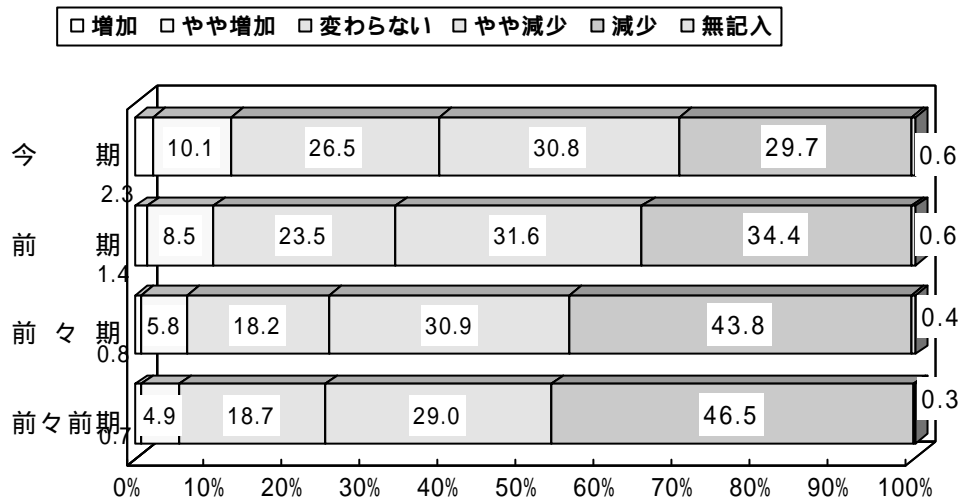
4 . 利益状況 (図 - 7 参照)

全体では、「増加・やや増加」が 12.4% (前回 9.9%)、「やや減少・減少」が 60.5% (前回 66.0%) で、DI 値は 48.1 (前回 56.1) となり、8.0 ポイント前回に続き改善した。

業種別では、卸売業が 53.7 (前回 52.1) と 1.6 ポイント悪化した。それ以外の業種は改善しており、特に製造業は 34.3 (前回 47.0) と 12.7 ポイント改善している。

地区別では、伊賀地区が 56.3 (前回 50.9) と悪化した一方、他地区は改善傾向となった。

図 - 7 利益状況

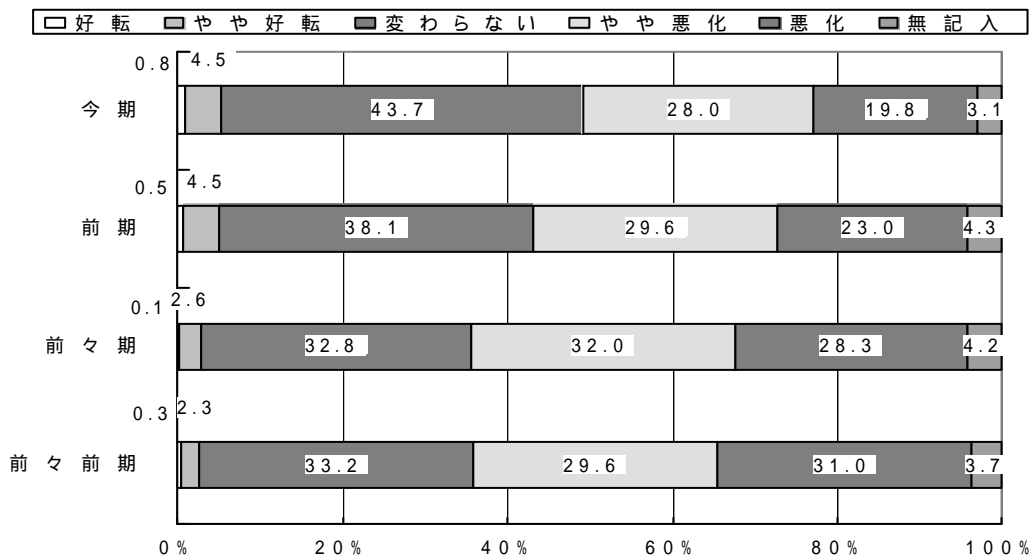


5 . 販売条件 (図 - 8 参照)

全体では「好転」、「やや好転」が 5.3% (前回 5.0%)、「やや悪化」、「悪化」は 47.8% (前回 52.6%) で、DI 値は 42.5 (前回 47.6%) となり、5.1 ポイント改善した。

業種別では、飲食業で 0.4 ポイント悪化した。それ以外の業種では改善した。地区別では伊賀地区 7.8 ポイント、北勢地区では 6.7 ポイントと大きく改善がみられ、全地区で改善した。

図 - 8 販売条件

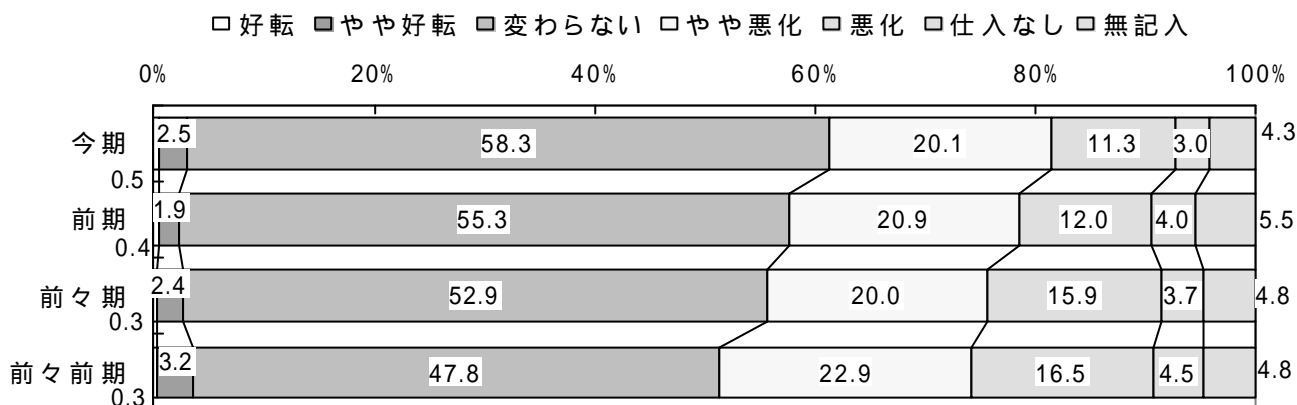


6 . 仕入条件 (図 - 9 参照)

全体では「好転」、「やや好転」が 3.0% (前回 2.3%)、「やや悪化」、「悪化」は 31.4% (前回 32.9%) で、DI値は 28.4% (前回 30.6%) となり、2.2 ポイント改善した。

伊賀地区を除く全地区、製造、小売、サービスは改善したが、交通運輸業は 11.7 ポイントと大きく悪化した。

図 - 9 仕入条件



7 . 設備投資 (図 - 10・11 参照)

全体では、設備投資を行った企業は 347 社、13.3% (前回 10.9%) 設備投資を予定している企業は 263 社、10.1% (前回 7.2%) とやや増加となった。

業種別では、交通運輸業が 33.3% と他の業種より高く、卸売業が 9.3%、小売業が 9.9% と他の業種より低い。また、地区別では中勢地区が実績 15.3% と最も高く、予定でも中勢地区が 12.6% と最も高くなっている。東紀州地区が実績 8.0%、予定で 3.6% と最も低い。

図 - 10 設備投資の実績

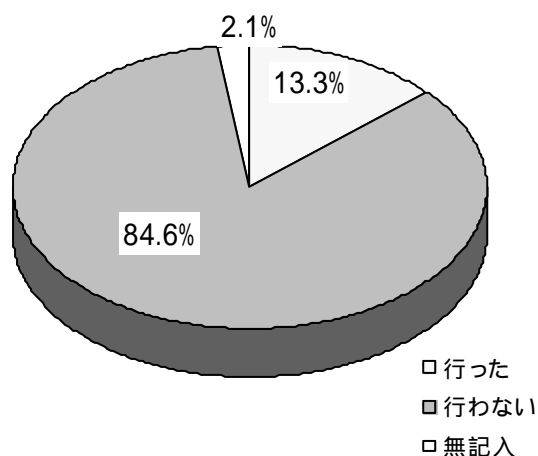
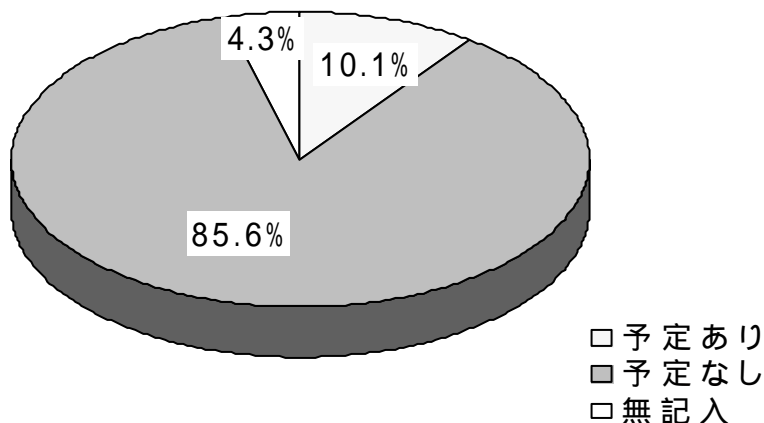


図 - 11 設備投資の予定



8 . 資金繰り状況と今後の見通し

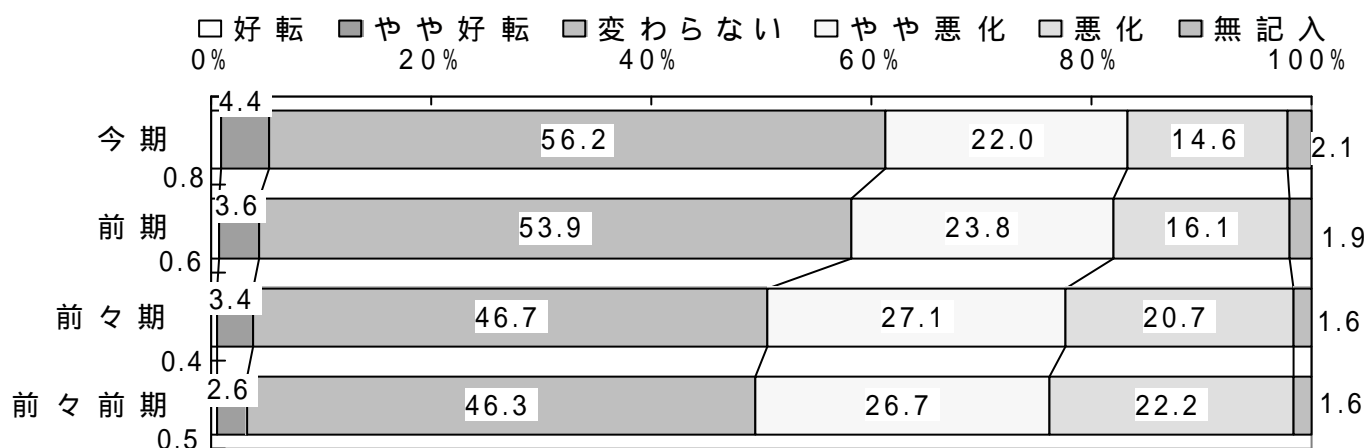
a) 現状 (図 - 12 参照)

全体では「好転・やや好転」が 5.2% (前回 4.2%) に対し「悪化・やや悪化」は 36.6% (前回 39.9%) で、D I 値は 31.4 (前回 35.7) となり 4.3 ポイント改善した。

業種別ではサービス業のみ、やや悪化がみられたが、それ以外の業種では改善した。

また、地区別では伊賀地区を除く全地区で改善した。

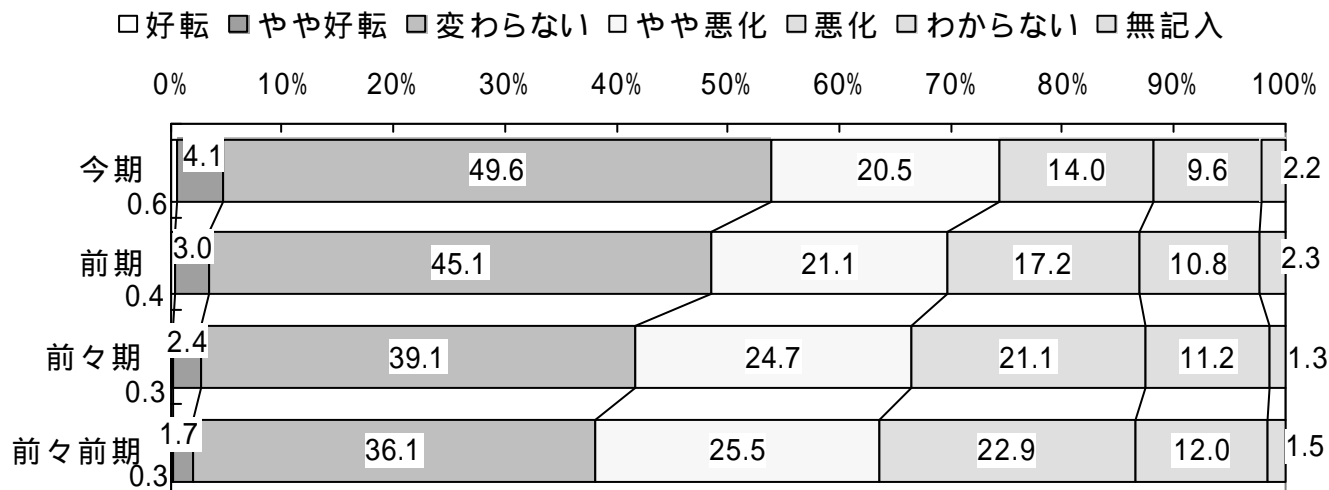
図 - 12 資金繰りの現状



b) 見通し (図 - 13 参照)

全体では、「好転・やや好転」が、4.1% (前回 3.4%) に対し、「悪化・やや悪化」は 34.5% (前回 38.3%) で、D I 値は 30.4 (前回 34.9) となり、4.5 ポイント改善した。業種別では、交通運輸業で最も高く 10.5 ポイントの改善がみられ、それ以外の業種でも改善した。また、地区別では伊賀地区を除く全地区で改善した。

図 - 13 資金繰りの見通し



9 . 借入状況

a) 現状

回答企業 2,600 社のうち、借入を実施した企業は、1,106 社、42.5% (前回 955 社、38.4%) であった。

b) 借入の難易度 (図 - 14 ・ 15 参照)

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が 13.8% (前回 12.5%)、「困難」は 21.1% (前回 20.4%) で、D I 値は 7.3 (前回 7.9) となり、前回とほぼ同じ結果であった。

業種別では、製造業、小売業、飲食業、サービス業で改善し、また、地区別では北勢地区、南勢地区が改善した。

図- 14 借入の難易度

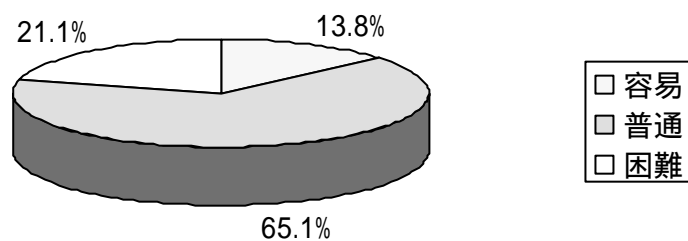
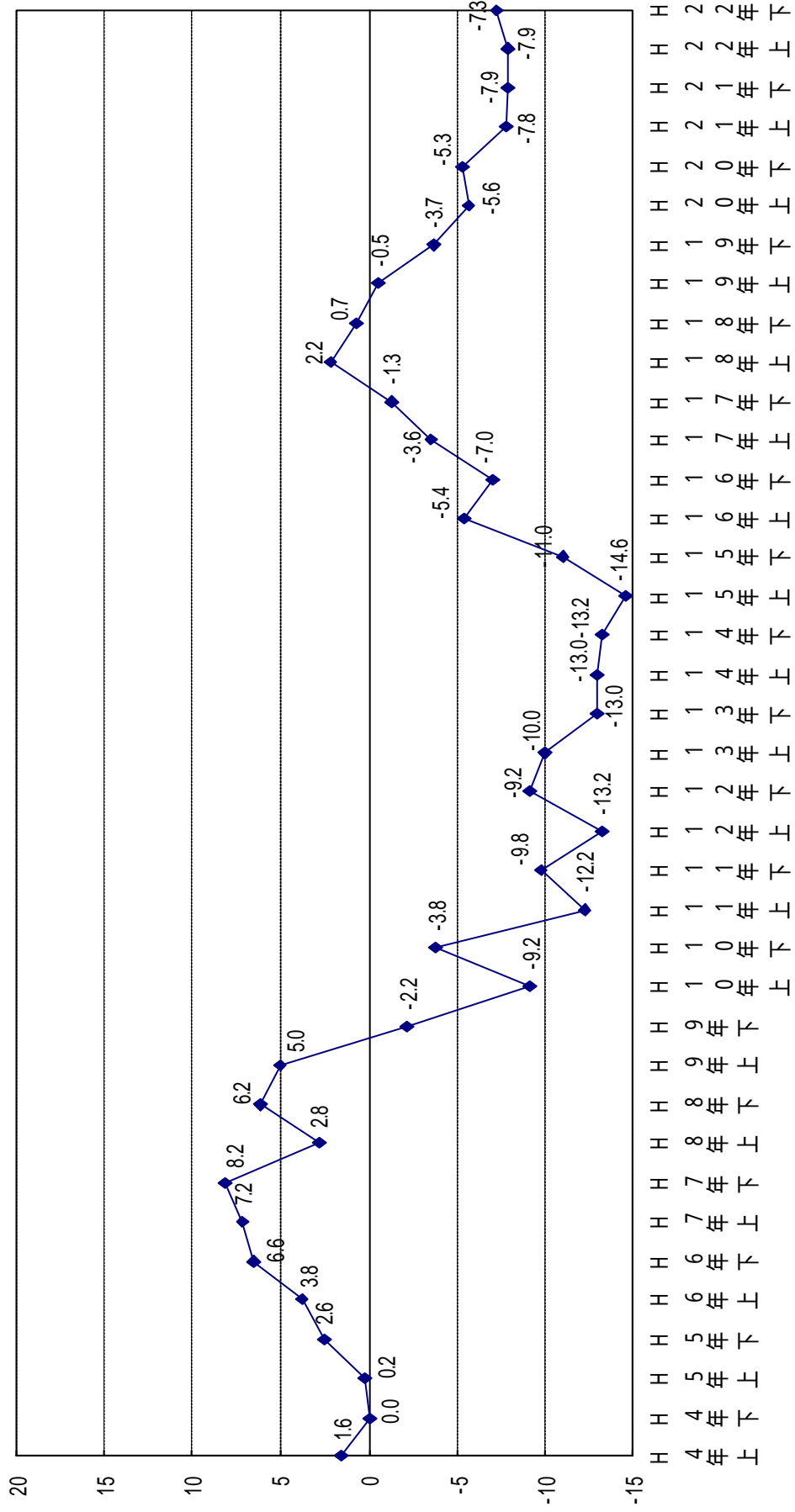


図 - 15 借入の難易度D値の推移



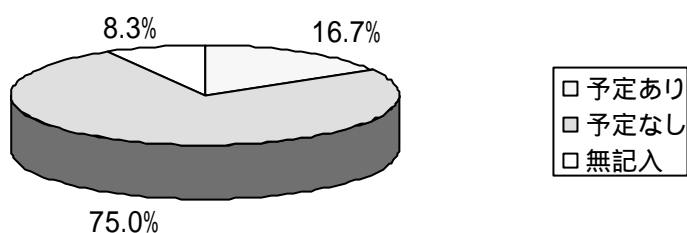
注) H17下期分までの値はB S I値を2倍した数値で表示

10. 借入予定 (図 - 16 参照)

全体では、回答企業 2,600 社中、借入を予定している企業は 435 社(前回 386 社) 16.7% (前回 15.5%) であった。

業種別では、建設業で 32.9%と最も高く、最も低かったのは飲食業の 3.4%であった。また地区別では、北勢地区が 53.1%と最も高く、東紀州地区が 7.4%と最も低かった。

図-16 借入予定



11. 借入希望先 (図 - 17 参照)

借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」が 57.0% (前回 56.5%) に対し、「公的金融機関」は 34.3% (前回 37.0%) で、公的金融機関での借入希望が若干減少している。

図-17 借入希望先

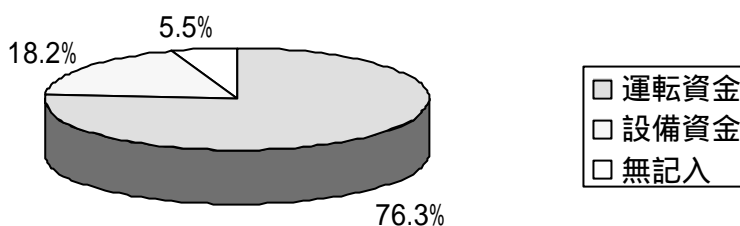


12. 借入金の使途予定 (図 - 18 参照)

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が 76.3% (前回 82.6%) に対し、「設備資金」は 18.2% (前回 13.5%) であった。

業種別では、「運転資金」で卸売業が 87.5%、一方、「設備資金」では交通運輸業が 43.8% と最も高くなった。

図- 18 借入の使途予定



13. 経営上の問題点 (表 - 1 参照)

全体では、「売上・受注の停滞減少」65.6% (前回 70.5%)、「競争激化」33.8% (前回 34.3%)、「製品・商品単価の下落」21.7% (前回 21.8%) の順となっている。

業種別では、全ての業種で「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多かった。業種別での 2 位以下の回答としては飲食業で「設備店舗の狭小老朽化」、交通運輸業で「人件費以外の経費増加」などがあがっている。

表 - 1 経営上の問題点 (3項目以内複数回答)

区 分		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製 造 業	売上・受注の停滞減少 (66.3)	製品・商品単価の下落 (31.8)	競争激化 (19.9)
	建 設 業	売上・受注の停滞減少 (70.1)	競争激化 (48.0)	製品・商品単価の下落 (20.2)
	卸 売 業	売上・受注の停滞減少 (75.5)	競争激化 (40.4)	製品・商品単価の下落 (21.2)
	小 売 業	売上・受注の停滞減少 (68.5)	競争激化 (38.9)	製品・商品単価の下落 (22.3)
	飲 食 業	売上・受注の停滞減少 (61.0)	設備店舗の狭小老朽化 (31.6)	競争激化 (27.2)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (63.9)	競争激化 (36.6)	設備店舗の狭小老朽化 (17.8)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少 (63.2)	人件費以外の経費増加 (24.6)	競争激化 (21.1)
	そ の 他	売上・受注の停滞減少 (61.6)	製品・商品単価の下落 (23.2)	競争激化 (19.6)
地 区 別	北 勢	売上・受注の停滞減少 (63.9)	競争激化 (35.9)	製品・商品単価の下落 (23.4)
	中 勢	売上・受注の停滞減少 (64.3)	競争激化 (40.6)	製品・商品単価の下落 (20.2)
	南 勢	売上・受注の停滞減少 (68.9)	競争激化 (32.6)	製品・商品単価の下落 (20.6)
	伊 賀	売上・受注の停滞減少 (67.2)	競争激化 (33.2)	製品・商品単価の下落 (16.6)
	東 紀 州	売上・受注の停滞減少 (70.4)	製品・商品単価の下落 (21.5)	競争激化 (15.0)
総 合		売上・受注の停滞減少 (65.6)	競争激化 (33.8)	製品・商品単価の下落 (21.7)

県下商工会議所地域の景況

桑名商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」との回答が7.3%、「まずまず」が26.6%、「やや悪い・悪い」が65.9%、D I値は 58.6(前回 69.4)で、前回に比べて10.8ポイント改善している。前回調査時の景況見通しD I値は 56.4であったことから、ほぼ見通し同様の結果となった。平成21年下期より3期連続で改善しており、景況は緩やかながら回復傾向にあるが、依然として数値は厳しい状態が続いている。

見 通 し

「良い・やや良い」との回答は5.5%、「やや悪い・悪い」との回答は56.2%、D I値は 50.7(前回 56.4)となり、現状のD I値と比較して7.9ポイント改善することの見通しであることが窺え、引き続き同程度の回復が見込まれる。

目立った変化等

経営上の問題点では、前回と同様、「売上・受注の停滞減少」、「競争激化」が上位を占め、次いで「製品・商品単価の下落」となっている。

「売上・受注の停滞減少」は前回調査に比べて減少しており、代わって「人材育成」「人手不足」との回答が増加しており、人材面が浮上してきている。

売上状況については、全体のD I値は 34.2(前回 52.7)となり、18.5ポイント改善している。特に製造業は 18.5(前回 45.3)と大きく改善している。

利益状況については、全体のD I値は 38.9(前回 55.1)で前回よりも16.2ポイント改善している。製造業は 25.4(前回 47.1)で売上状況と同じく改善幅が大きいほか、サービス業も 38.8(前回 58.7)と大きく改善している。

四日市商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が5.8%(前回 5.4%)、「まずまず」が28.1%(前回 22.9%)、「やや悪い・悪い」が66.0%(前回 71.8%)となり、現状D I値は 60.2で前回値の 66.4より、6.2ポイントの改善を示す結果となった。

業種別に前回値と対比すると、機械製品製造業に代表される製造業や自動車整備に代表されるサービス業は大幅な改善となり、その他の卸売業・飲食業・建設業は、数値が改善した。一方交通運輸業は依然、厳しい現状となった。

見 通 し

「良い・やや良い」が5.6%、「まずまず」が24.8%、「やや悪い・悪い」が59.3%となり、D I値は 53.7(前回 58.0)との結果であった。この値と今期調査で得た「経

営状況の現状」におけるD I 値 60.2 とを比較すると、6.5 ポイント上昇した。

業種別では、業種によっては依然格差があり、製造業・建設業で緩やかではあるがD I 値は上昇したが、飲食業は悪化するとの見通しとなった。

目立った変化等

経営上の問題点では、「売上・受注の停滞減少」(60.8%)、「競争激化」(37.0%)、次いで、「製品・商品単価の下落」(19.2%)の順で上位を占めた。特に、「売上・受注の停滞減少」の回答割合が6割と依然低迷している状況が明らかになった。また、「設備店舗の狭小老朽化」も13.4%あり問題が表面化しつつある。

設備投資の実績では、「行わない」が今回85.1(前回86.7)と依然低く、今後の予定についても「予定なし」が今回89.1(前回89.5)と意欲は低い。

一方、売上状況・利益状況・資金繰りのD I 値は、前回同様僅かながら改善が見られる。

今回『雇用の先行き見通し』について実施した、「給与の削減」と「人員の削減」の見通しとしては8.6%(34社)あったものの「現状の人員と給与水準を維持していく」との回答は全体の6割を超えた。また、「雇用したいが人材がいない」と回答した企業も10.1%(40社)あった。

鈴鹿商工会議所地区

現 状

対象1,079社 回答389社 回答率36.0%、「良い・やや良い」と答えた企業が4.6%と前年同期(2.1%)より2.5%増加し、「やや悪い・悪い」と答えた企業は67.6%と前年同期(76.6%)より9.0%改善している。また、D I 値が63.0と前年同期(74.5)と11.5ポイント改善している。現状について、前年同期に比べやや改善傾向にある。

見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が1.5%と前年同期(2.1%)より0.6%減少し、「やや悪い・悪い」と答えた企業は59.9%と前年同期(70.2%)より10.3%減少している。また、D I 値が58.4と前年同期(68.1)と9.7ポイント改善している。

今後の見通しについて、改善傾向にあるが、大幅に改善する見通しではない。

目立った変化等

経営上の問題点として、今期では「売上・受注の停滞減少」67.1%、「競争激化」38.0%、「製品・商品単価の下落」25.2%の順で上位を占めた。前年同期の調査では、1位は「売上・受注の停滞減少」で72.2%、2位は「競争激化」で47.1%、3位が「製品・商品単価の下落」で27.5%となっており、この3つが上位を占めている。

近年では、「売上・受注の停滞減少」と「競争激化」が上位を占めており、同業者との競争により顧客の奪い合いや単価の下落などが、「売上・受注の停滞減少」に繋がっていると推察される。

亀山商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が 3.8% (前期 2.6%)、「やや悪い・悪い」が 59.8% (前期 65.0%) となり、D I 値は 56.0 で、前期値 62.4 より 6.4 ポイント好転しているものの依然厳しい。

見 通 し

「良い・やや良い」が 4.8% (前期 0.0%)、「やや悪い・悪い」が 61.6% (前期 51.3%) となり、D I 値は 56.9 で、前期 51.3 より 5.6 ポイント悪化しているものの、やや改善の兆しもある。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、前期同様「売上・受注の停滞減少」が最も多く、続いて 2 位は同率で「競争激化」、「製品・商品単価の下落」となっている。また、前期の調査に比べ、「設備店舗の狭小老朽化」、「人件費以外の経費増加」、「売掛・債権回収の悪化」の問題が増えてきている。

津商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 7.3% (前回 2.8% : 前年同期 5.1%)、「やや悪い・悪い」が 55.1% (前回 65.5% : 前年同期 71.1%)、D I 値が 47.8 (前回 62.7 : 前年同期 66.0) と前年より 18.2 ポイントマイナス幅が減少する結果となった。

業種別では製造業・建設業・卸売業・サービス業で改善傾向が見られた。中でも製造業では前回から 24.4 ポイント改善した。卸売業は前回、悪化傾向が見られたが今回は改善傾向が見られた。

見 通 し

「良い・やや良い」が 5.5% (前回 3.2% : 前年同期 4.8%)、「やや悪い・悪い」が 56.2% (前回 66.2% : 前年同期 64.8%)、D I 値は 50.7 (前回 63.0 : 前年同期 60.0) と前年より 9.3 ポイントマイナス幅が減少する見通しとなっている。業種別でもほぼ横ばいの推移となっているが、建設業で 21.4 ポイントマイナス幅が減少する見通しが見られる。また、小売業では 13.3 ポイントマイナス幅が増加する見通しとなっている。

目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く 56.3% となった。次いで「競争激化」46.7%、「製品・商品単価の下落」21.1% となった。前回と比較すると順位の変化はないものの経営上の問題点は数点に集中していたのが他の項目への分散も見られる。

業種別に見ると、どの業種も「売上・受注の停滞減少」を最も困っている問題として捉えている。

松阪商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が6.2%（前回2.1%）、「やや悪い・悪い」が63.3%（前回66.5%）となりDI値は、57.1（64.4）前回に比べやや改善しているという結果となった。また、業種別に見ると建設業、交通運輸業では若干悪化しているという結果になった。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が5.7%（前回2.1%）、「やや悪い・悪い」が61.0%（前回60.9%）DI値が55.3（前回58.8）と3.5ポイント改善を示し、業種別でも、建設業、小売業、サービス業で改善を示した。

目立った変化等

経営上困っている問題点として全体で、最も多かったのは「売上・受注の停滞減少」、2位は「競争激化」、3位は「製品・商品単価の下落」という結果となった。業種別に見てもすべての業種で「売上・受注の停滞減少」という回答が最も多かった。

伊勢商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が5.8%（前回4.9%）、「やや悪い・悪い」が66.7%（前回64.9%）DI値が60.9（前回60.0）と前回に比べて0.9ポイント悪化している。

業種別では、製造業、小売業で改善が見られたが、それ以外の業種では悪化であり、特に飲食業で前回に比べ37.5ポイントDI値が悪化している。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が4.8%（前回5.4%）、「やや悪い・悪い」が58.9%（前回61.4%）DI値54.1（前回56.0）と前回に比べ1.9ポイント好転している。

業種別では、建設業、小売業が悪化の見通しが見られるものの、飲食業、製造業、サービス業では回復傾向にある。

目立った変化等

経営上の問題点として、全体では「売上・受注の停滞減少」が68.6%と最も多く、次いで「競争激化」35.7%、「製品・商品単価の下落」22.2%の順となっている。

業種別では、「人材育成」の割合が製造業、飲食業で前回に比べて高くなっている。

鳥羽商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」があわせて3.8%、「やや悪い・悪い」があわせて66.2%、DI値62.4（前期76.1、前々期80.0）と前期に比べ13.7ポイント改善している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答は1.3%、「やや悪い・悪い」の回答は58.8%（前回67.4%）で前回よりも8.6%減少。D I 値も 57.5(前回 64.5)で、前期より7.0ポイント改善している。

目立った変化等

最近の売上状況ではD I 値 46.2（前期 66.0）と 19.8 ポイント改善しており、売上の見通しについてもD I 値 48.0（前期 52.9）と 4.9 ポイント改善する見通しとなった。利益状況についてもD I 値 56.3(前期 63.9)と前期に比べ 7.6 ポイント改善。業種別では、製造業、卸売業、ホテル・旅館業が前期に比べ改善している。経営上困っている問題では、「売上・受注の停滞減少」「競争激化」「設備店舗の狭小老朽化」が前回と引き続き問題点の上位となっている。

上野商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が4.9%（前回3.3%）、「やや悪い・悪い」が64.6%（前回60.9%）D I 値が 59.7（前回 57.6）で僅か 2.1 ポイントの悪化となった。

業種別では、卸売業・飲食業・サービス業が改善となったが、製造業・建設業・小売業が悪化となり、特に小売業は 86.6 で前回より 24.2 ポイントの悪化となった。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が6.1%（前回3.3%）、「やや悪い・悪い」が57.3%（前回48.9%）で、D I 値は 51.2（前回 45.6）となり 5.6 ポイント悪化の見通しとなった。

業種別では、特に小売業が 93.3 で前回より 43.3 ポイントの大幅な悪化を示し、一方飲食業は 33.3 で前回より 41.7 ポイントの大幅な改善の見通しとなった。

目立った変化等

経営上困っている問題点として、「売上・受注の停滞減少」が73.2%と最も多く、2位は経済状況の変化を受けて「原材料高及び不足」が23.2%とあがってきている。又、3位の「競争激化」も22.0%と依然上位にあがっている。

名張商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が5.1%、「やや悪い・悪い」が65.4%で、D I 値は60.3（前回53.2）となり、前回より7.1ポイント悪化した。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が4.4%、「やや悪い・悪い」が57.3%で、D I 値は52.9（前回60.2）となり、前回より7.3ポイント改善の見通しとなった。

目立った変化等

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が64.2%で最も多く、次いで「競争激化」が39.0%で2位、3位には、「製品・商品単価の下落」と「人材育成」が16.4%となり、前回の1位から4位と同様の結果となった。

尾鷲商工会議所地域

現 状

全体として、「良い・やや良い」が2.6%（前回2.1%）、「やや悪い・悪い」が52.3%（前回65.1%）DI値が49.7（前回63.0）と前回に比べ13.3ポイント改善しているものの業種別では、飲食業が9.2ポイント、交通運輸業15.3ポイント悪化している。

見 通 し

全体として、「良い・やや良い」が2.1%（前回1.0%）、「やや悪い・悪い」が47.6%（前回61.1%）DI値が45.5（前回60.1）と前回に比べ14.6ポイント改善している。業種別では、全ての業種で回復が見られるが飲食業においては依然悪化傾向が続いている。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く72.5%となった。次いで「製品・商品単価の下落」26.5%、「競争激化」14.5%となった。

業種別に見ると、どの業種も「売上・受注の停滞減少」を最も困っている問題として捉えている。

熊野商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が2.4%、「悪い・やや悪い」が69.4%、DI値が67となり上期の数値より悪化した。

業種別で見ても、製造業とサービス業を除くすべての業種で悪化傾向となった。

見 通 し

「良い・やや良い」が2.4%、「悪い・やや悪い」が75.3%、DI値が72.9となりこちらも上期の数値よりかなり悪化した。

業種別で見ると、全ての業種で悪化傾向となり深刻な見通し予測となっている。

目立った変化等

上記以外も大半の項目で悪化が見られた。また、問題点として人件費以外の経費の増加や原材料の原材料の高騰を挙げられる事業所も増えており、景況感は悪いのに経費は増加するという深刻な調査結果が出た。